



とり 鳥の本

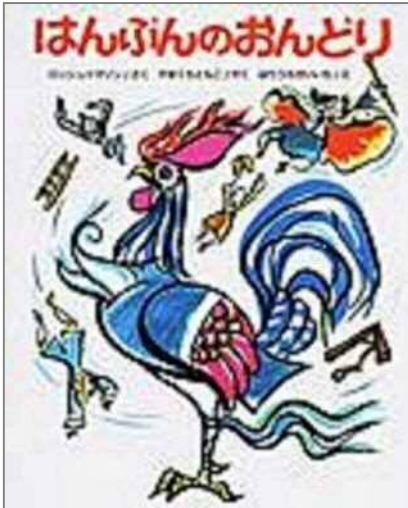
がつ 5月10～16日 にち
ちょうしゅうかん
「あい鳥週間」



「鳥」と聞いて何を思い出しますか。つばさを広げて空をとぶすがたでしょうか。それとも、きれいな鳴き声でしょうか。鳥はわたしたちにとって身近な動物ですから、鳥が登場する話は世界中にたくさんあります。鳥が活やくする本をしょうかいします。

『はんぶんのおんどり』

ジャンヌ・ロッシュ＝マゾン／さく
ほりうち せいいち／え やまぐち ともこ／やく
(瑞雲舎)



「わたしが死んだらさいさんは半分ずつ分けておくれ」と父親が言いのこしました。よくばりの兄は、父親がかわいがっていたおんどりまで半分にして食べてしまいました。やさしい弟に助けられたもう半分のおんどりは、川や火や風を味方にして、次々にふしぎな事を起こし、けちんぼうな王様をやっつけて、弟にすばらしいおん返しをします。



『したきりすずめ』
石井 桃子／再話
赤羽 末吉／画
(福音館書店)



おばあさんののりをなめて、したを切られたすずめに、おじいさんが会いに行きます。おじいさんがすずめにもらった箱には、たから物が入っていました。それを見たおばあさんは、もっとたくさんのたから物がほしくなります。



『この羽だれの羽?』
おおたぐろ まり／作・絵
(偕成社)

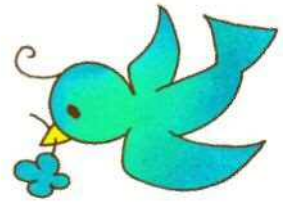


鳥の羽を拾ったことはありますか。鳥の羽は大きさも形もさまざまで、役わりもちがいます。美しい羽の実物大のイラストと羽にかんする話題をしょうかいしています。

とり 鳥

の

ほん 本



がちょうのペチューニア
ロジャー・デュボワザン／作
まつおか きょうこ／訳
(富山房)

ある日、がちょうのペチューニアは本を拾いました。その本を持ち歩くだけで、かしこくなったようにかんちがいして、とくいげにふるまいました。けれども、ペチューニアは知ったかぶりで、大しっぱいしてしまいます。



小さな赤いめんどり
アリソン・アトリー／作
神宮 輝夫／訳
小池 アミイゴ／絵
(こぐま社)

小さな家におばあさんが一人ぼっちでくらしていました。「だれか、話し相手が、ほしいものですねえ。」とひとりごとを言うと、ふしぎな力を持った小さな赤いめんどりがたずねてきました。おばあさんは大よろこび。楽しい生活が始まります。ところがある日、元の主人がやってきました。



カモのきょうだいクリとゴマ
なかがわ ちひろ／作・絵
中村 玄／写真
(アリス館)

台風のおおあめの中、助け出されたたまごから生まれたのは、カモの赤ちゃんでした。人間の家にやってきたカモのきょうだいはすくすくとせい長します。やがて二羽が、カモのなかまのもとにかえる日がやってきました。



ペンギンのヒナ
ベティ テイサム／さく
ヘレン K. デイヴィー／え
はんざわ のりこ／やく
(福音館書店)



カラスだんなのおよめとり
チャールズ・ギラム／文
石井 桃子／訳
丸木 俊／絵
(岩波書店)



鳥のくちばし図鑑
国松 俊英／文
水谷 高英／絵
(岩崎書店)